

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1970102008	
法人名	ドリームワークス有限会社	
事業所名	グループホーム ドリーム	
所在地	山梨県甲府市川田町367-1	
自己評価作成日	令和3年1月10日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai gokensaku.jp/19/index.php">http://www.kai gokensaku.jp/19/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新1-2-12
聞き取り調査日	令和3年2月15日 月曜日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

果樹地帯の恵まれた環境の中で、利用者とスタッフが共に生き生きと充実した生活を送っています。ドリームは、施設長が生まれ育った所にあり、隣接して自宅もある。そのため顔馴染みの人々が多く暮らしており、地域との交流が自然な形で行われている。周りに広い果物畑があり、そこで取れた季節の果物をいただき、お茶を差し上げるなどの交流もある。施設内は危険な物は排除されており、すっきりと整理整頓され清潔感がある。掲示物も心がこもった暖かいものが飾られている。職員は今までの利用者との関わりやレベルアップのための研修を通して自分のしていることが他のスタッフにも理解され、全スタッフが共通理解をもって利用者個々へのサービス提供に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業者は甲府市の東部に位置し、国道から少し入った果樹園が隣接する閑静な住宅地の中にある。周辺には公共の施設や小学校・保育園・商店・ホームセンター・飲食店などがあり利便性の良い環境にある。事業所は地域密着型として地域の人達から受け入れられ、繋がりが密である。「家庭的」「人格の尊重」「地域との支えあい」を根幹とした開所当初からの事業所の理念を職員一同常に心に留め「身体拘束」は絶対にしません、「自分たちの介護力でおこなう」をモットーに、家庭的な生活を守るための支援を日頃から心掛け実践に繋げている。職員の気づきのレベルが向上していると実感している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている 現状は(参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように(コロナ禍以前) 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている 現状は(参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が(コロナ禍以前) 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム ドリーム**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な環境を守る。 利用者個人個人の人格を尊重する。 地域に根ざし地域に認められる。 以上を理念として掲げサービスに当たっている。	事業所の根幹をなす理念「家庭的」「人権を尊重する」「地域に根ざし地域に認められる」を玄関に提示し、朝礼やカンファレンスで周知徹底している。個々の入居者にとってどこが一番輝ける場所なのかを常に心に留め、家族・スタッフを含め近所のお寺でお坊さんの話を聴く、知人を訪ねる等それぞれの思いを大切にしたり関わりを行なっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の自治会や消防団に所属し常に地域とのつながりを意識しながら利用者サービスに努めている。 地域の行事に参加したり、地元消防団と共に防災訓練を行うなど、積極的に地域と交流している。	自治会に加入している。コロナ禍で今までのような地域行事への参加は出来ない。家族とは施設内での行事等の写真をラインや請求書と一緒に送ったり喜ばれている。小学生もお手紙を書いてくれたり、登下校時に「僕たちも応援しているから頑張ってくださいね」等の声を掛けてくれる。近隣の方もマスクやタオルを届けてくれ地域との良い関係が築けている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内での認知症高齢者を抱えた家族の相談に乗り、アドバイスしている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催し、出席者の意見を伺いサービスに活かしている。	運営推進会議はオンラインで行っている。コロナ禍で感染予防対策としてガードを設置したが、入居者が不穏となってしまう委員から意見を貰いガードは外し手洗い等を徹底している。またタブレット化については良い方法だと賛成の意見が多く継続に繋がっている。包括からはマスクや消毒液が不足していないかの連絡がある。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の中でも利用状況をつぶさに報告し、時に助言を求めるなど常に連携している。	運営推進会議の議事録やQandAをファックスで送信し、アドバイスを受けている。市からのメールは欠かさず見るようにしている。マスクや物品不足の連絡も定期的にある。コロナ禍で、対面でのやり取りは少なく成ってはいるが、生活支援を受けている入居者もあり、日頃から連携がとれる体制となっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について研修をおこなっており、常に身体拘束は0となっている。	「身体拘束」については毎月のカンファレンス時に行い、スピーチロックは「誰かが」ではなく、都度スタッフ同志で注意し合う関係が整っている。不穏時や転倒させない等の対応は、介護力で補うや、さりげない声掛けを行ない、「小さなサインを見逃さない」介護をして行こうと職員同志で常に心掛けたケアに努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について研修を行っており、言葉や態度等も含めた虐待は0となっている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の中に生年後見人が担当していた方がいるため、十分に理解している。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を交わす際十分に説明し理解していただいてから契約をおこなっている。			

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム ドリーム**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者のご家族の言葉には常に耳を傾け要望を把握しサービスに活かしている。	今までと違った方法で、家族とのコミュニケーションをと考え、リモート面会・ラインで入居者の写真や職員の自己紹介を言葉で伝える配信を行なった。家族から今まで知らなかったことが沢山あった、施設での様子やスタッフさんのことも解ってとても良かったとの声が上がっている。今後も入居者との橋渡しに繋げていく。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の引継ぎの際、また毎月の職員会議の際に全職員から意見を聞きドリームの運営や利用者サービスに活かしている。	特に管理者との面接はなく、日頃から自由に意見がだせる環境である。勤務体制は介護の中での入居者の状況に応じ、その時々ポジション調整が多い。入居者のADLの変化に対しての気づきが多く有り、意見やアドバイスをケアリーダー・職員同志相互に行い、運営やサービスに反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自の仕事の内容や意欲などを見ながら、給与に反映させている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ドリーム内でも研修を行い、更に外部の研修にも参加させ能力の向上に努めている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の介護施設とも交流し、情報交換など互いの向上に努めている。			
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所してから慣れるまでは特に信頼関係の構築に力を注いでいる。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の相談の段階からご家族の要望等は詳細まで聞き取り把握し、円滑な関係をきづいている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	上記のとおり本人やご家族の希望要望や、今おかれている状況を詳細に把握して利用者にも最適したサービスを考えている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者個々の人格を尊重し、人生の先輩として敬いながら共に生活できる環境づくりを実践している。			

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム ドリーム**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とは常に連絡報告を怠らず、ご家族とドリームの共通理解で利用者サービスを提供している。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親しい友人知人が面会に来たり、親しんだ場所があったら、そこへドライブに行くなど、これまでの生活を断ち切らないよう努めている。	認知度の高い方のストレスの緩和の為、馴染みの場所等にドライブに行き気分転換を図っている。知人・友人・家族に手紙を書く、電話をする等の支援も行っている。また面会が思うように出来ていないことから、家族に写真を持って来てもらい、写真を見ながら個々の話の中に取り入れ関係が途切れないよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に利用者同士の係わりには気を配っている。日々レクリエーションや制作活動を提供するなど、良い雰囲気の中で利用者全員が生活できるよう努めている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も担当職員やご家族と連絡を取りながら、利用者がより良いサービスを受けられるようフォローしている。また、故人となられた利用者様の思い出の品をご家族にまとめて差し上げたり、葬儀に赴くなど、エンゼルケア等にも積極的である			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者個々の希望要望には常日頃から耳を傾けて把握に努めている。	日々接している中でさりげなく話す機会をもうけ、一人ひとりの思いをくみ取る努力をしている。入浴中発した言葉・不満等心の中にある思いを受け止め記録し、多角的な面からの支援に努めている。思いや意向を表現できない入居者は、表情や仕草等からくみ取り、問題となっていることを見逃さず職員間で共有している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や担当のケアマネージャーと入居前から密に連絡を取り、これまでの生活歴や、受けていたサービスなど詳細に把握するようにしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有するカ等の現状の把握に努めている	毎朝のバイタルチェックから始まり、利用者一人ひとりの状況の変化には注意を払いながら、その日の状況に応じたサービスを提供している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の状況をお便りで報告し、ご家族の意見を伺いながらケアカンファレンスに盛り込み、更に担当の医師や看護師に相談しながら個々に合わせたサービスを提供している。	入居前に利用者・家族と面接し、思いや意向のアセスメントを行ない暫定プランを作成し、1か月後にモニタリングに基づき、職員・家族・医師・看護師からの意見・要望を反映した本プランを作成している。本プランは3か月ごとに評価・見直しを行ない本人の現状に則した介護計画を作成し、家族の同意を得てサービス提供を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	サービス提供記録に記入しながら、引継ぎ時も職員同士で密に報告や連絡をして常に職員全員が共通理解を持ってサービスに当たっている。			



自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム ドリーム**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者一人ひとりの状況の変化にはスタッフ全員で常に注意を払っているためその都度柔軟に対応している。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との関係は十分に構築されているため、地域資源も視野に入れながら利用者サービスに当たっている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医師の選択は本人、ご家族の希望ととし、その他必要に応じて様々な科を診療できるよう、医師や病院との係わりには常日頃から気を配っている。	入居前に今後受診をどうするか本人・家族に聞いている。全員が協力医の訪問診療を希望され、月2回内科の訪問診療と看護師の体調管理が行われている。歯科受診は訪問医の紹介で職員が受診同行を行っている。その他の専門医受診も同様の対応をしている。家族との連絡も密に取れいて情報の共有ができています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力病院であるハッピークリニックの内布医師と看護師と常に連携している 月に2度の訪問診療、毎週の訪問看護により適切な受診や看護を受けられている			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	協力病院であるハッピークリニックの内布医師を通じて各専門医との関係も良好であるので入院治療、退院後の対応なども万全になっている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の状態が悪化してきた場合は、協力病院であるハッピークリニックの内布医師も交えてご家族と密に協議しながら、利用者への対応がより良いものであるよう心掛けている。	入居時に事業所の看取り指針に基づき看取り対応の説明を行なっている。全体的にレベルが低下した時、医師が重度化と判断した時は往診医・看護師・家族・職員を交え密に話し合いが行われ、今後の方針を決めている。職員の看取り研修も定期的に行われ、看取りの体制は整っている。往診医・看護師との連携もしっかり出来ており、事業所で安心して終末期を迎えられる様に努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	協力病院であるハッピークリニックの内布医師と看護師と常に連携している 緊急時のマニュアルはスタッフ全員に配布し周知徹底し、更にスタッフルームにも用意してある。また毎月の職員会議の際確認している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に3度避難訓練を行い、その中で夜間想定訓練と洪水時の訓練を行っている。 また、地元消防団と共に訓練をする等、消防団の協力を得られている。	事業所では、夜間を想定した避難誘導訓練・放水時の訓練を年3回実施、内2回は消防署立ち合いで実施している。入居者を実際に指定避難場所迄誘導し、避難経路の確認を行なっている。避難訓練の実施報告書を消防署に提出し評価・アドバイスを頂き、次に活かしている。地元消防団や地域との協力体制も整っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者は人生の先輩であるという意識はスタッフ全員が持っているため、利用者への言葉かけや態度には十分に配慮しながらサービスを行っている。	事業所の理念「利用者一人ひとりの人格の尊重」を常に念頭に置き、利用者の誇りを傷つけたり、プライバシーを損ねた声掛けをしない様に職員全員が意識を持って関わっている。入居者同士のトラブル時さりげなく間に入る、トイレ・入浴の誘導時さりげない言葉かけを行う等、安心・安全に配慮している。書類等の管理も徹底している。		

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム ドリーム**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望、要望は最大限聞き入れるよう努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの状況は日々変化することがあるので、その日の個々のペースに合わせたサービス提供に努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節ごとに洋服を入れ替え、時期に合わせたコーディネートを提供している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ADL的に可能な利用者が居る時は、簡単な調理や食後の皿洗いなど、出来ることを無理なく手伝ってもらいながら過ごしている。	献立は栄養士が立て、食材は提携事業者が搬入している。食事形態は個々に合わせ対応している。おやつレクリエーションではいちごパン大福・どら焼き・ほうとう、誕生日には赤飯等を入居者と一緒につけて楽しんでいる。食事の配膳や盛り付け・後片付け等も入居者の個々の力を活かし、出来ることは手伝ってもらっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事やお茶など、栄養士が個々に合わせた栄養バランスや水分補給を考え提供している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、全員の口腔ケアを個々の常態に合わせて行っている。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけオムツではなく自立排泄が出来るよう、定期と併せて希望に応じたトイレ誘導をしている。	自立している方が1名、リハビリパンツ・パットの方が7名、夜間のみポータブルトイレを使用する方が2名いる。入居者一人ひとりの排泄チェック表や行動パターンの観察から排泄のタイミングを掴めた方が3名いて失禁が減っている。トイレの開閉はカーテンで、排泄時さりげない見守りが出来、自立に向けた支援に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	協力病院であるハッピークリニックの内布医師と看護師と協力しながら、水分や薬、運動で調整している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は一人ずつ入ってもらい、ゆったりと過ごせる様支援している。また、希望に応じて入浴日以外の入浴サービスも行っている。	何時でも入浴できる準備は整っている。職員は、羞恥心・恐怖心・負担感に配慮し同性介護を希望する方への対応にも心掛け、その人に合った裸の付き合いで対応を行なっている。ADLの低下した方でも立ち位置を考慮した、安心・安全な楽しい入浴が出来ている。また、季節の花を散らす・柚子湯等気分を変えて入浴出来る工夫も行なっている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム ドリーム**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の毎日の睡眠状況を把握し、午睡の時間を設ける等、その状況に応じて利用者が快適に過ごせる様気をつけている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	協力薬局からの資料から、スタッフ全員が効能や副作用を理解し、利用者の変化に気をつけながら服薬介助している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日、レクリエーションや制作活動をの提供している。 利用者の特技や趣味を最大限活かしながら日常生活を過ごせるよう心がけている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候の良い日は散歩に出かけたり、ドライブに出かけたり、表の空気を吸って気分転換できるよう支援している。	日常的に事業所周辺の散歩は行っていて、室内に閉じこもることのない様に車椅子の方も一緒に出掛け、施設長宅の犬と遊んだり、近所の方と挨拶を交わす機会もある。また、デッキに椅子を出し短時間でも戸外に出て日光浴を行ったり気分転換を図る等の機会ももうけるように努めている。以前のようにはいかないが、季節を感じてもらえるような場所にドライブに出掛けることもある。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	近所のスーパーなどに出かけ買い物を楽しんだり、地域の催し物に参加する等して機会をもうけている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じてご家族に電話をかけたり、お手紙を送ったりできるよう支援している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温や湿度には十分注意を払い、またBGMの音量などにも気をつけている。また朝日などが直接当たるような時間帯はカーテンを開けておいたり、環境には気を配っている。	玄関を入ると広々としたフロアと成っていて、正面の窓からブドウ畑が見渡せ、四季折々の移り変わりを感じることが出来る。フロアは対面式キッチンと成っている。室温・湿度・BGMが配慮されたフロアでは楽しい食事はもちろん、テレビを見たり、レクリエーションを楽しむ事の出来る暮らしの場と成っている。廊下は広く整理整頓されている。フロアには入居者と一緒に行った作品が飾られている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには畳コーナーの他ソファも用意されているので、何時でも一人になったり気の合った利用者同士が語り合えるようになっている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはコタツや仏壇など好みの品を自由に持ち込んでいただいているので、これまでの生活環境を維持しつつ居心地よく過ごせるようになっている。	居室はフローリングの洋室と2部屋の和室から成っている。エアコン・カーテン・ベッド・洋服掛け・押入れが備え付けてある。押入れは洋服が掛けられるようになっていて整理整頓がしやすく工夫してある。ピンク色で飾られたお部屋・テレビ・ぬいぐるみ・猫のパネルやカレンダーなど好みの物を持ち込みそれぞれ配置してあり、安心して過ごせる居心地のよい居室と成っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はフラット構造になっており、安全を確保した中で利用者が出来るまで自立した生活を送れるよう支援している。			